

こころの玉手箱

サッカー
元日本代表選手
ラモス 瑠偉

5



ブラジルの「リオ・ブランコ勲章」

勲章を受けると、母は「ラモス家の誇りだ」と喜んだ

2000年9月、ブラジル政府からいただいた「リオ・ブランコ勲章」は、ブラジルと外国との懸け橋になった人物の功績をたたえるものだ。スポーツ選手ではF1レーサーのアイルトン・セナにも授与されたと聞いている。そんなものをもらって私以上に興奮したのが今は亡き母で、「ラモス家の誇りだ」と親戚中に触れ回ったらしい。

前年の1999年11月、皇居前広場で天皇陛下のご即位十年をお祝いする国民式典に招かれた。そこにブラジルの大使がいて、私に興味を持った。自分の道のりを話すと「映画になりそうな話だ」と感激し、本国に掛け合ってくれて叙勲の流れとなった。リオ・ブランコとは教科書にも出てくる「ブラジル外交の父」と呼ばれる偉大な人物。日本サッカーの発展に寄与、日伯関係を良好にしたと認めてくれたのだろう。

私自身は肩書とか周りの評価は気にしない。ただ、16年暮れに脑梗塞に倒れ、奇跡的に回復してからは自分が生かされている意味を深く探すようになった。まだ果たすべきことが自分にもあるのかなど。

病に倒れた同じ年にブラジルのリオデジャネイロで開かれたオリンピック、パ

これからも懸け橋として

オリンピックが、私の第二の故郷になった東京に来年やって来る。それが自分の人生と重なるようで、この一大イベントにどんな形でもいいから懸け橋として貢献したいと思っている。それが私という人間を迎え入れてくれた日本への恩返しにもなると信じている。

11人制からビーチサッカー、フットサルと私は三つのカテゴリーで代表選手としてプレーした。世界に例がないらしい。

今は三度目のビーチの代表監督を務めている。この先、何をするかはよく分からない。夢や目標はあるがこれまでどおり、目の前の仕事に集中するだけ。一生懸命さが伝わって別の仕事が出来たら、それにチャレンジする。その仕事は何であれ、必要とされる場所があれば、こたわらずに行く。命が続く限り、生かされる。それが私の今の願いだ。

来週は落語家の桂南光氏です。